

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Bユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	令和元年11月12日	評価結果市町村受理日	令和2年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は出勤時「おはようございます。今日もよろしく願います。」と利用者、職員同士笑顔で挨拶をします。
 笑顔で話しかけることで利用者や家族は面会時などに話しかけやすく、対等な関係を築いていきたいと思っています。また外出(外食)行事にも力を入れていて、そのため歩行運動や散歩は毎日欠かせません。
 そして、出来る限り地域とのつながりを継続していけるよう、その方に合った支援をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム敬愛苑 Aユニット に記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内やエレベーターなど、よく見えるところに掲示している。また基本理念は朝の申し送り時に出勤者で唱和して意識を高め、実践につなげている。新人職員には入社時のオリエンテーション時に話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の会合や研修会などに空きスペースを貸し出したり、天神祭りやどう行列などに利用者が見学、参加している。またボランティア活動などでも地域の方に参加してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の一時避難所になっていて、過去の火災時には宿泊場所に利用してもらった。また会議室やレクルームという広い空間があるため、町内会などに開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H28年度からは年2回デイサービスとの合同会議を開催している。近隣の町内会をはじめとする委員の方や包括支援センター、家族に参加していただき、認知症高齢者への理解やサービス向上を図っているが、理解をいただくにはまだまだ努力が必要だと感じている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方とは運営推進会議への出席が少なくなったため、以前よりは関わりが少なくなったように思うが、相談や困難事例等には協力してもらい、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな場合においても拘束は行わないという姿勢で利用者に接している。また利用者の状態は細かくチェックし、申し送り等を徹底し、職員同士見守りを強化している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、ミーティングなどに参加し交流の機会を作り、暴言や無視など職員が気づいていない不適切な行為にもその都度対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ研修には出来る限り参加し、内部での研修にもつなげている。またそれを利用されている方もおられるため、実践で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、まず施設で生活された場合の高齢者のリスクなどを説明してからご理解をいただき契約に入っている。また解約時の説明もさせていただいている。改正時には文書にて都度説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは日ごろから声をかけやすい関係作りを築きながら、意見や思いを引き出しやすいようにしている。また利用者とも毎日の会話や動きの中からヒントをつかみ、利用者が表現しやすいよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員と話しやすい関係作りに努めている。出来る限りこちらから話しかけたり、休憩を一緒にしたりして、意見や提案が出しやすいよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは2ヶ月に1度の会議があり、意見交換したり、実績、勤務状況など伝えている。また要望なども伝えて、職場環境を改善してもらえるように日ごろから連絡は密にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、経験年数などを踏まえて受講できるようにしている。またユニット会議で研修として報告してもらい、全スタッフが受講できるようにして実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者とは、グループホーム部会に参加することで交流したり、研修で他グループホームで学ぶ機会があり、業務に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望を聞き、家族からも生活歴等の情報を聞き、安心した暮らしができるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、心配されていることを聞き、対話を重ねながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態と本人、家族の要望を合わせて、必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の食事等の手伝いや行事で使用するものを一緒に作ったり、本人のやりたいことを聞き、それを実現できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日々の様子を伝えたり、2ヶ月に1度写真を載せたお便りで近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、居室等で談話をさせていただいたり、本人の思い出の場所へ出かけたり、地域行事にも参加したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで参加できる行事やレク活動を通して、利用者同士が関わることができるようにしている。利用者同士良好な関係が続くように、席替えやスタッフが間に入り、会話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などの場合、なじみの職員が機会を作って見舞いに行ったり、移り住む先の関係者とも情報交換を行っている。また、家族からの相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話、生活歴などから本人の希望や思いを把握し、サービスにつなげている。困難な方には、家族と相談しながら行動や表情から思いをくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでにこれまでの日々の暮らし方や生活歴、生活環境を本人や家族、ケアマネ、職員と面談し情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のしたいこと、できることを可能な限り優先した援助を行いながら、日々情報共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、意見を聞き、職員全員で意見交換をしてケアプランを作成している。日々、カンファレンスをしながら見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに身体的状況や日々の様子、本人の言葉、エピソード等記録している。スタッフ間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気候の良い時期には、一人ひとりの体調に合わせ、外出支援を行っている。墓参りの支援を行うこともある。通院等の送迎は、家族と相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員、中央包括及び市生活福祉課の職員、町内会長、DS、GH利用者の家族等に参加していただき、意見交換や情報収集を行い、信頼関係を築くと共に支援に役立てるように努めている。また地域のボランティアの方々に演義などを披露していただき、利用者楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する病院またはかかりつけ医に受診や往診をしていただいている。また家族の要望があれば、病院等へ付き添い、普段の様子や変化を伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常接する中で、利用者の様子や体調の変化を看護職員に伝え、相談している。そして、早期に主治医に報告し、適切な指示や治療を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報提供を医療機関にしている。本人、家族、医療関係者と情報を共有し、早期に退院できるよう支援に努めている。退院後の生活についても病院から細かく情報を提供してもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の相談があった際、重度化した場合終末期の対応について説明している。かかりつけ医が終末期等の対応していただける場合、利用者、家族、主治医と十分に話し合い、相談しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。年に1回は苑内でAEDの講習会を行い、実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や自主避難訓練を行っている。また会社内防災センターの協力にて、消火器の使い方や避難経路など定期に受けている。AEDの使い方の講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上から目線にならないように利用者の思い、人格を尊重するように心掛けている。入浴、排せつ等はプライバシーを傷つけないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを図りながら、信頼関係が築けるように努めている。なるべく本人の思い、希望に近づけるように支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースに合わせて、一人ひとりと会話し、意思を確認しながら、思いに寄り添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、離床時、整容をしていただけるよう声掛けをしたり、介助したりするよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者の状態に合わせ、ペースト状にしたり、刻んで食べやすくして提供している。 食後には、お膳拭きをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェック表に毎日記入し、一日の摂取量を把握している。好みを把握し、好きな飲み物を提供している。水分が取りにくい人にはトロミを使用したり、ゼリー等を提供したり、飲み物を変えるなどして、水分を多く取っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただき、利用者の方が出来ないところは介助するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、一人ひとりの排泄のパターンを把握する。またトイレに行きたいと思われる行動(サイン)を見逃さないようにし、都度トイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続いている入居者には、看護職員に相談しながら、水分補給、歩行運動を促したり、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の身体の調子、タイミングに合わせて入浴を行っている。入浴時の会話等を楽しめるように工夫、支援している。拒否の方には、時間をずらして再度声掛けしたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に帰室せず、その日の状況に合わせて気持ちよく眠れるよう支援している。夜間の様子等、職員で情報交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し、服薬時は誤薬のないように、必ず職員2名にて一包ごとに確認し、飲み終えられたかの確認をしている。状態変化時は、記録を取りすぐ看護師に報告し、主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれにしていだけるお手伝いをお願いし、都度感謝の気持ちを伝えている。また季節の壁紙作りや行事への参加、生け花、習字、そろばん、裁縫などこれまでの趣味や楽しみを継続していだけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や状態、また天気や職員の体制に合わせて、近所の散歩や車での外出、外食、自宅への外泊、墓参り、地域のお祭りや行事への参加の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かっているが、利用者の希望があれば、外出、買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をできない方は職員が手伝っている。携帯電話を持っている方は自由に話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作られた作品を季節ごとに飾ったり、音楽を流したりしている。エアコンだけではなく、天窓や苑庭からの風を利用している。ソファなどでもくつろいでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑庭に昔懐かしい足踏みマシンやダンスを置き、緑豊かな観葉植物を植え、気の合う人と散歩途中に話ができるよう、ベンチやソファを配置し居場所作りをしている。季節ごとにひな人形、こいのぼりなどの展示をし話題作りをしている。ラウンジには図書館と称し、自由に見られる本を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたダンス、置物、椅子等を持ち込んでいたり、苑での作品を壁に掲示したりし、居心地の良い落ち着ける空間になるよう配慮している。家族と相談し、ダンス、椅子、置物を置いたり、家族の写真、作品等を飾り、落ち着けるような空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口にはスタッフ手作りののれんを飾り、自身の部屋としての認識を持っていただいている。洗濯干し、たたみ、お膳拭きなど一人ひとりできることをしていただいている。またリビング、廊下にはソファを置き、疲れたら自由に腰を下ろし、休憩がとれるように工夫している。		